

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [京都市立岩倉北小学校] 担当教諭名 [森 裕美子] (6年1・2組 54名)
 相手国・地域 [デンマーク]
 海外学校名 [Maglegårdsskolen] 担当教諭名 [Gitte Tjellesen]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合	戦争と平和	6
	総合	デンマークに伝えよう	20
	外国語	Welcome to Japan.	6

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	地球の未来を切りひらけ！
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	世界中の人々が、お互いの文化や気持ちを認め合ったり理解しあったり、手をとりあ って協力することでよりよい未来を創っていきたい。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
修学旅行で学び、考えた「戦争と平和」について、校内だけでなく世界の友達に伝えることができ、大変意欲が上がった。また、世界がより身近に感じることができ、他教科(社会・外国語等)の学習でも意欲が高まったように感じられた。	お互いの長期休暇や行事で忙しくなる時期がずれていたの、連絡が滞ってしまうことがあった。また、学習テーマが同じだと、学びがさらに深まったのではないかなと思う。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
デンマークに非常に興味をもっていた。紹介のパワーポイントを見て、さらに深く知りたい、行ってみたいという声が多く上がった。 世界をより近くに感じることができ、国際協力や世界の文化を調べる学習にも大変意欲的に進める姿が見られた。	世界の国と交流することで、非常に近く感じる事ができた。学習を校内にとどめるのではなく、世界へと発信することで学びが深まっていくと感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	5月 6月	紹介ムービー 自己紹介カードの作成	・名前を紹介するときに漢字とローマ字で書くと、日本の文字も知ってもらえるかなと、受け取る子どもたちのことを考えながらカードを進めていた。 ・今までに学習した単語や表現を組み合わせて自己紹介を行った。	外国語
共有 テーマ学習	9月 10月	平和な世界をつくっていくために、どうしていけばいいかを考える	・修学旅行で感じた、戦争の恐ろしさを振り返り、戦争のない世界をつくっていくためには、自分たちに何ができるかを意欲的に考えた。	総合
融合 メッセージ作成	11月	キーワード作成	・自分たちにできること、実践していきたいことを、短くわかりやすい言葉で伝えることができるようにと考えていた。	総合
創造 壁画制作	12月	下絵 壁画作成	・手をとりあって協力していきたいという思いを表現したいと、モチーフになる絵を考えていた。また、デンマークの子どもたちの考えた絵も取り入れることができるように進めていた。	総合
評価 振り返り 自己評価	2月	返ってきた絵を確認 お礼を伝える	・絵がつながってうれしい ・この絵をもっとたくさんの人に見てもらえるのがとても楽しみだ。	総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	日本を紹介するパワーポイント作成。
異文化を理解する力	5	デンマークの文化に非常に興味をもった。
情報活用能力 （収集・まとめ・発信）	4	パワーポイント作成時に、必要な情報を調べ、まとめることができた。
コミュニケーション力 （双方向・共感・英語）	4	英語で伝えることの難しさや、伝わったときの嬉しさを感じることもできた。
批判的に思考する力 （客観的・論理的視点）	3	日本だけでなく、いろんな国の人にわかりやすく伝えるデザインを話し合っていた。
主体的に考え行動する力	5	メッセージを考える場面で他者と協働し、主体的に考えることができていた。
他者と協働する力 （学級内・海外の相手）	5	メッセージを考える場面で他者と協働し、主体的に考えることができていた。学年の中でも役割を分担し、責任をもって果たしていた。
思いを言葉や形にする力 （メッセージ作成・壁画制作）	5	壁画制作において、考えたことや伝えたいことをどのように表現するか、考えることができた。
評価する力 （作品の鑑賞・学習の自己評価）	3	コロナウイルスによる休校もあったため、ゆっくり鑑賞する時間をとることはできなかったが、かえってきた作品を喜んでいました。